



◇指導方法

- ・マトリックス用の台紙に、7色（赤・青・黄・緑・黒・白・茶）の中から、児童が取り組んでみたい色を選び置く。次に、7種類（魚・飛行機・かき氷・船・カエル・長靴・かさ）の中から児童が取り組んでみたい形を選び置く。
- ・2×2のマトリックスから取り組むが、はじめは、カードを1枚ずつ渡して、「赤い魚だね。」と色と形を話しかけながら、台紙にカードを置いていけるようにする。回を重ねるごとに、渡すカードを増やしていき、最終的にはすべてのカードを置いておき、全部児童が並べられるようにしていく。全部並んだら、「赤い魚ください。」と話しかけ、そのカードを取らせる活動に発展させることができる。
- ・2×2のマトリックスができるようになってきたら、3×3のマトリックスに進んでいく。

◇指導のねらい

- ・色と物・動物の属性を言語で認識し、色と形の組み合わせ（例えば「赤い魚」など）を理解したり、言葉で表出したりする。

◇指導の評価

- ・色に興味関心はあるが、まだ色の名前をはっきり認知していない児童に対して、色とその名前を理解させると同時に、物にも名前があることを理解させるための学習として、マトリックスを取り入れた。児童の好きな形や季節に合わせた絵を取り入れることで興味関心をより引き出すことができた。カードを手を持つたびに、教師が話しかけた言葉を復唱することで、名前を覚えることができ、言葉の表出もみられた。

また、その日にやってみたい好きな色と形のカードを自分で選ぶことで、意欲を引き出し導入がスムーズにできた。

さらに、カードを並べるという動作が繰り返されることで、じっと椅子に座っていることができない児童にとっても、操作活動が多くあり、最後まで集中をして学習をすることができた。